

1 学校教育目標	
教育目標………	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標………	単位制の特色を生かして、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、学力の向上や進路の実現を図る。保護者や地域との連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざす。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>本校は、教育目標に「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を掲げ、単位制の利点を生かしながら、生徒が明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み、将来厳しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力の育成を目標にしている。生徒の授業態度は真面目であり、部活動や学校行事にも熱心に取り組み、節度ある行動や態度をとることができるが、一方、やや覇気に乏しい面がある。校内の指導体制は、分掌・年次の連携の下で、基本的生活習慣の確立及び学習習慣の定着を目指し、あいさつ運動や身だしなみ指導、週末課題や自習倶楽部での指導等が全校体制で組織的に行われている。また、キャリア教育年間指導計画に基づき進路指導も適切に行われ、生徒の進路意識が高まるとともに、卒業後の進路実現にもつながっている。今後とも、全教職員の協働体制により、以下の取組を進めていきたいと考える。</p> <p>①基礎学力の定着を図るとともに、進路目標をしっかりと持ち、夢の実現にむけチャレンジし続ける生徒の育成をめざす。 ②部活動を通して、心・技・体のバランスのとれた、心身ともに健康で自己指導能力をもつ人間を育成するため、全教職員共通認識のもとに組織として指導に当たる。 ③本校の教育活動や生徒の様子を積極的に地域・保護者に発信するとともに、卒業生、保護者、地域の人々の力を活用し、異校種の学校とも連携した教育活動を展開する。 ④教職員が自ら絶えず自己研鑽を積むことによって、授業力、さらには人間性を高めるとともに、その土台となる健康の増進をめざす。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>1 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実 2 部活動の充実 3 家庭、地域社会、異校種の学校との連携強化 4 教職員の資質向上と健康増進</p> <p>チャレンジ目標・・・「一歩先のことを考えて行動しよう」 ・時間厳守！ ・早めに試験勉強に取り組もう！ 1年次目標 基本的生活習慣を身に付けよう ―挨拶の励行 時間厳守 身だしなみの徹底― 2年次目標 礼を尽くし、場を清め、時を守る ～共生を意識しよう～ 3年次目標 自己実現～明日へ向かって行動を起こそう</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	○図書館利用の活性化	・蔵書の充実や分類毎のバランスを図り、学習や読書に利用しやすい環境を整える。 ・「図書だより」の発行や「読書ノート」の指導、各種コンクール等への参加をとおして生徒の読書活動を支援する。	4: 図書館の年間延べ利用者数が2,000人以上で、「図書だより」も毎月発行できた。 3: 図書館の年間延べ利用者数が1,500人以上で、「図書だより」も毎月発行できた。 2: 図書館の年間延べ利用者数が1,000人程度で、「図書だより」は毎月発行できた。 1: 図書館の年間延べ利用者数が1,000人を大きく下回り、「図書だより」を毎月発行することができなかった。	4	図書館には、読書センター・学習センター・情報センターとしての役割や憩いの場としての役割など様々な面がある。本の貸し出し冊数については、あまり多くはないが、読書ノートの記述からすると、家庭の蔵書や友人との貸し借り、書店等の利用を含めて割に活字に接していることが伺える。授業での活用や自主学習、パソコン検索や雑誌閲覧等を加えると、のべ2,000人以上の利用は達成できた。また「図書だより」についても毎月発行できた。読書週間中に実施した全校一斉のブックトークによる読書指導の一環として、互いにお薦め本を紹介し合う「読書の樹」を年次毎に作製し、廊下に掲示することで、全校で共有し合うことができた。読書感想文コンクールにおいては、今年も地区審査を経た10編に選ばれて県審査への出品を果たした。なお、読書ノートコンクールについても、1・2年全員を対象に年間3回の提出を課し、1冊毎に点検・コメント記入の後、10編以上に達したものを出品した。その結果優秀賞1・優良賞2を受賞した。		
	○保護者との連携活動の強化	・保護者のPTA活動や学校行事に対する理解を深め、積極的な参加を促す。また、これらの活動をとおして、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送れるように、保護者と学校との連携を更に深める。	4: PTA総会・年次集会等の出席率が25%以上であり、各活動に対する理解が十分深まり、保護者と学校との連携も大変充実した。 3: PTA総会・年次集会等の出席率が20%以上であり、各活動に対する理解がかなり深まり、保護者と学校との連携も充実した。 2: PTA総会・年次集会等の出席率が15%以上であり、各活動に対する理解はあまり深まらず、保護者と学校との連携も不十分であった。 1: PTA総会・年次集会等の出席率が15%未満であり、各活動が不調であり、保護者と学校との連携は不十分であった。	2	PTA総会は、休日のほうが参加率が上がるのではという考えの下で、ここ数年5月の土曜日に開催している。今年度の参加率は16.9%(昨年度18.9%、一昨年度20%)であった。また、総会後に引き続き行われる各年次集会への出席率は21.9%(昨年度23.7%、一昨年度25%)と減少した。これからはPTA役員等の意見も取り入れ、出席率が上がるよう取り組んでいきたい。 年間を通して、学校行事やPTA関連の各種行事・会議などを実施しているが、講演会(演奏会)等には、毎回少数ではあるが保護者の参加がある。明日葉祭へのバザー参加については、PTA役員熱心な働き掛けによって、多数の評議員の積極的な参加もあり盛況だった。今年度の収益は熊本地震災害義援金として寄付している。4年目になるPTA学校見学会も教職員合わせて14名の参加でとても充実したもとなった。また6月と12月には東新川駅のボランティア清掃活動を開催し、ともに10名程度の参加があった。 今後もこれらの成果を足掛かりに、様々な場面を通して保護者との連携を深める工夫をしていきたい。		A
教務	○学習習慣の定着	・従来の国語・数学・英語を中心とした週末課題に加え、予習・復習に積極的に取り組ませる、繰り返し学習をさせることによって、家庭学習の定着・基礎学力の充実を図る。	4: 家庭学習の時間が1日平均2時間以上であった。 3: 家庭学習の時間が1日平均1時間30分以上であった。 2: 家庭学習の時間が1日平均1時間以上であった。 1: 家庭学習の時間が1日平均1時間未満であった。(家庭学習の時間を知らするためにアンケートを実施する)	2	1学期に2回、学習状況アンケートを全員対象で実施。2学期後半には県教委の学習状況等に関するアンケートを抽出で実施した。幅をもたせた尋ね方をしたため正確な学習時間を把握するのは難しかった。学習時間は個人によって大きな差がある。特に3年次生は、その傾向が顕著である。学習の内容としては、宿題や週末課題が大半を占めており、自発的な学習は少ない。しかし、学習習慣の定着や基礎学力の養成は少しずつできてきていると思われる。また、自主的に問題集・参考書や入試問題に取り組む生徒や、塾・家庭教師などを利用する生徒が少ないので、各教科や進路指導課と協力して、自主的な学習の大切さを教えていく必要がある。		
	○学習指導の充実	・学力向上に向けたPDCAサイクルによる学習指導の充実のために、積極的に教科会議や研修等を行い、単元・学期・年間計画を効果上がるように立てる。また、授業の始めに目標を示し、授業の最後に学習内容の振り返りやまとめをすると共に、アクティブ・ラーニングを取り入れた主体的・協動的な活動を充実させる。	4: 教科会議や研修等を1年間に10回以上実施した教員の割合が90%以上であった。 3: 教科会議や研修等を1年間に10回以上実施した教員の割合が75から90%であった。 2: 教科会議や研修等を1年間に10回以上実施した教員の割合が50から75%であった。 1: 教科会議や研修等を1年間に10回以上実施した実施した教員の割合が50%に満たなかった。(教科会議を月に1回程度開いて学習指導の改善と充実のために協議や研修等を行い、内容を簡単にまとめたものを提出する。)	2	教科によって会議の回数等が異なるので、全体としての評価は難しい。月に1度は会議を行い報告する教科は少ない。学習指導の充実を図ることに係る教員間のコミュニケーションは少ないが、向上意識が希薄であるとは思えない。教科としてまとまって取り組む上で、余裕がないように思える。特に、PDCAサイクルを意識して授業を実践することや、「めあて」の提示と「振り返りやまとめ」を行うこと、アクティブ・ラーニングの導入などを意識できるように、全教員及び非常勤講師にも詳しく紹介すると共に、教科で実践の報告をしてもらうなどして、学習指導の充実を目指していきたい。		B

生徒指導	○基本的生活習慣の自立的確立	・身だしなみ指導と朝の登校指導をとおして、生徒の自覚的な生活習慣の確立を図る。	4:身だしなみ指導と登校指導が毎月及び毎日実施され、全教職員の協力による指導が図られた。 3:身だしなみ指導と登校指導が学期1回及び週1回程度実施され、全教職員の協力による指導もほぼ図られた。 2:身だしなみ指導と登校指導が年1回及び月1回程度しか実施されず、全教職員の協力体制が不十分であった。 1:身だしなみ指導も登校指導も全く不十分であった。	4	基本的生活習慣の確立及び基本的マナーの育成については、毎月1度の身だしなみ指導や毎日の朝の立ち番指導、昼休みの校内巡視、定期的な実施している校外巡視や通学列車マナー指導等、全教職員の協力を得て効果的に実施できた。検討課題としてきた、朝の立ち番指導の中での「あいさつ運動」の成果をさらに上げていくため、生徒会による自主的な活動やPTAとの連携を図り、積極的に取り入れることができた。 また、生徒や保護者のアンケート結果において、「基本的生活習慣や社会のルール、マナーなどが身に付いてきている。」の内容に対して9割が「あてはまる」との回答があった。特に、生徒の意識が高まっている。今後も、指導してきた内容と生徒の心身の変容をしっかりと把握し、教育相談・SC・養護教諭等との連携を図っていききたい。	・教員による管理的な生徒指導ではなく、生徒一人ひとりに向き合われている取組の成果として、生徒自らが考えて行動しており主体性が十分感じられる。基本的生活習慣の確立などは家庭の協力が必要である。保護者との連携を密にして取り組んでほしい。 ・学校行事への取組も積極的にされているように思われる。生徒会を中心に生徒の主体的な参加を推進していただきたい。また、地域との連携を推進していただきたい。 ・規律を乱す生徒に目が行きがちではあるが、頑張っている生徒への評価を積極的に行ってほしい。	A
	○特別活動への主体的参加の推進	・生徒会や各クラスの学校行事(明日葉祭・体育大会・クラスマッチ・生徒総会等)への積極的・主体的な参加を促す。	4:生徒会を中心に各行事ともクラス全員の積極的な参加が見られた。 3:生徒会を中心に各行事ともクラスで行われた。 2:行事によっては活動が不十分であった。 1:クラスの活動が積極的ではなかった。	3	生徒会を中心に各種委員会活動の活性化を図ってきた。毎月1回、常設委員会を開催し、月間目標を掲げ、全校生徒への呼びかけも行ってきた。来年度も生徒の当事者意識・主体性を高めていくために各種委員会活動の充実を図っていききたい。 学校行事への積極的な参加については生徒・保護者それぞれのアンケートでも約9割の良い評価を得ており、生徒の自主的な活動の場面も多く見られ、目標は達成されたと考えている。		
進路指導	○進路実現のための実力養成	・生徒の希望進路実現に必要な実力養成のために、特に自習室・自習倶楽部の効果的な指導を図る。	4:自習倶楽部・自習室参加者の実力が向上し、進学実績が昨年度を大きく上回った。 3:自習倶楽部・自習室利用が計画的に行われ、進学実績が昨年度を上回った。 2:自習倶楽部・自習室は利用したが効果が不十分で、進学実績は昨年度と同程度であった。 1:自習倶楽部・自習室の効果的な活用ができず、進学実績が昨年度を下回った。	3	自習倶楽部においては、部員は例年並みの19名(昨年11名)の部員が集まった。近年、私語や立ち歩きもほとんどみられなくなり、自習態度は良くなった。夏休み400時間勉強チャレンジで部員を含む23人中9名が、センター試験まで1000時間勉強チャレンジでは部員19名中14人が達成した。国公立合格者では昨年度10名中3名、本年度11名中4名を占めており、集団での学習が学力向上の一助となっていると考えられる。 自習室の利用については、土曜日自習室の開放日を昨年20回から本年39回へと日数を倍に増やした。昨年は124名(平均6.2名)、本年は39回で265名(6.8名)と微増したが、学習習慣を付けさせたい1・2年の参加者が少ない。日頃から受験への早期対策の重要性を示してやり、参加が増える方向にもっていききたい。	・放課後や土曜日の自習室活用など生徒が自主的に学ぶ姿勢が見られる。生徒が互いに教え合う場面が多くなると思う。 ・個々の生徒の要望に応えられるように、個別指導の充実を図っていただきたい。	B
	○進路意識向上のための計画的指導の推進	・「総合的な学習の時間」を計画的に実施し、進路に対する意識を高める。	4:アンケートで「役立った」との回答が概ね8割以上であった。 3:アンケートで「役立った」との回答が概ね6割以上であった。 2:アンケートで「役立った」との回答が概ね4割以上であった。 1:アンケートで「役立った」との回答が概ね4割未満であった。	3	生徒アンケートでは肯定的回答が83.4%、保護者アンケートでは86.0%と概ね高く、職業・学問の研究成果の発表や講話・講演・講義等の継続的・系統的な実施が評価に結びついていると考えられる。しかし、自分が決めた進路において、今の成績で行ける学校を受験する傾向もみられる。頑張る勉強し、実力を付けてより高いレベルの学校にチャレンジする者が増えることが望まれる。今後より一層早い段階で高い目標を設定し、その目標に向かって努力できるようサポートしていききたい。	・キャリア教育の充実により、多様な進路に対応がされている。国公立大学合格者を徐々に増やし、これからも全体のレベルアップを図ってほしい。	
保健環境	○心身の健康の保持増進	・担任・校内コーディネーター・養護教諭・スクールカウンセラー等が連携し、心身のケアが必要な生徒の早期発見・早期対応に努めると共に、全教員が情報を共有できる体制を整備する。	4:心身のケアが必要な生徒への連携した機敏な対応と併に、自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が充実していた。 3:心身のケアが必要な生徒への対応と自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が行われた。 2:心身のケアが必要な生徒への対応と相談活動や保健指導がやや不十分であった。 1:心身のケアも相談活動や保健指導もほとんど行われなかった。	3	生徒が元気に安心して学校生活を送れ、特に精神面でのケアが必要な生徒の早期発見のために、各学期に「不安や悩みについてのアンケート」「いじめに関するアンケート」「教育相談アンケート」「Fit」を実施した。また、その結果を集計分析し、必要に応じてスクールカウンセラーを中心に適宜ケース会議を行った。このことから、ケアが必要な生徒への早期対応がスムーズに行われた。また、その他にも学校生活でサポートが必要な生徒に対しても学期ごとにケース会議を実施し、教職員で情報を共有して生徒支援を行った。	・心身のケアが必要な生徒には、保護者・SCと連携を密に図り、寄り添った指導をきめ細かく行ってほしい。 ・清掃活動や美化活動を一層推進し、豊かな心が育まれる学習環境を整備していただきたい。校外での多様な活動を行うことで、成長することも必要である。	A
	○学習環境の整備	・清掃活動の徹底とゴミの減量化を促進させながら生徒の環境意識の向上を図る。また、花壇づくりなど校内美化に努め学習環境を整備する。	4:清掃活動その他の美化活動が計画どおりに実施され、生徒の環境意識も高まった。 3:清掃活動その他の美化活動がほぼ計画どおりに実施され、生徒の環境意識もやや高まった。 2:清掃活動等が不十分で生徒の意識を高めるまでに至らなかった。 1:計画のみにとどまった。	3	皆が気持ち良く学校生活を送れるように、清掃時間に生徒環境委員の巡視を実施して生徒自らの環境意識を高め、清掃状況の把握と活動の充実を図った。花壇・外庭では担当教員の指導の下、環境委員・掃除当番の生徒が良く活動した。特に花壇については、春秋2回の土作り、苗の植え付け、水やり、除草などを行い、とても美しい花を咲かせることができた。清掃活動については、指示されたことはするが自分から率先して活動できる生徒はまだ少ない。生徒の自主性を高め、一層校内の美化を図りたい。		
業務改善	学校の組織等		4:委員会で活発・具体的な提言がなされ、教育活動の充実が大いに期待できる。 3:委員会で活発・具体的な提言がなされ、教育活動の充実がかなり期待できる。 2:委員会で活動が中途半端に終わり、教育活動の充実があまり期待できない。 1:委員会で活動が行われなかった。	3	企画運営委員会や教育課程検討委員会など各種委員会を計画的に開催する中で、新たな取組の実施や今までの取組に対する検討・改善が十分に行われている。来年度から実施する「進学クラス」の設置など、特色ある学校づくりの推進を共通理解の下、協働体制で行っていきることが必要である。	・業務改善を推進することで、教職員が働きやすい職場環境を作っていたいただきたい。教職員の心身への負担軽減が必要である。	A
	○機能的な校内組織の整備	・学校運営に関する委員会を推進し、教育活動の充実を図る。					
	○日常的な業務	・学習指導、生徒指導等に関する諸規定を整備を推進する。	4:諸規定が大いに整備された。 3:諸規定がかなり整備された。 2:諸規定があまり整備されなかった。 1:諸規定に手をつけられなかった。	3	教務部や進路指導部で内規の見直しを行った。また「いじめ防止基本方針」、「危機管理マニュアル」や「応急対策計画」などの改定を行うと併に、校内研修会を実施した。	・新たな取組も検討がなされている。企画と実践が結びつく積極的な活力ある生徒が育つ。特色ある学校づくりとして「進学クラス」の設置に期待する。	
	○勤務状況	・業務内容を見直し、勤務状況の改善を図る。	4:大いに改善が図られた。 3:かなり改善が図られた。 2:あまり改善が図られなかった。 1:全く改善が図られなかった。	3	各分掌で会議を行い業務内容の見直しを行っている。また、部活動の統廃合を推進することなどで勤務状況の改善を進めている。平成28年の年休取得日数は、平均9.6日(昨年8.3日)で増加している。業務改善を行うことで年休を取得しやすくし、教職員の心身の健康増進を図りたい。		

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
【成果】	①様々な取組を行うことで、読書活動の充実が図られ、図書館利用者数は増加している。PTA役員と連携した文化祭や地域ボランティアなどの各種行事をとおして、本校教育活動に対する保護者・地域の理解が深まっている。 ②学力向上の各取組により、幅広い学力をもつ生徒に柔軟に対応している。各種研修を行うことで、教員の資質向上を図る姿勢が見られる。 ③管理的な生徒指導ではなく、多くの場面で生徒の主体性が感じられる。アンケートやSCの活用も十分に行われ、心の悩みを持つ生徒にも適切に対応している。 ④組織的な進路指導体制の構築を行っていることが伺える。進路意識が十分に向上され、国公立大学進学や公務員など幅広く進路実現がされている。 ⑤環境委員を中心とした環境整備や花壇づくりなどの校内美化を通じて、生徒の自主性が育まれている。 ⑥各種委員会活動を積極的にを行い、新たな企画を行うなど機能的な組織運営が行われている。校内諸規定や各分掌での取組などの見直しも推進されている。
【課題】	①家庭での日常の読書習慣が見られない。図書館利用者が一部生徒に限られている。読書の大切さを教えてほしい。 ②入学時には成績の良い者も多い。モチベーションを維持する仕組みも必要である。 ③文化祭の一般開放など地域に開かれた学校づくりを推進していく必要がある。 ④大学進学などでは志を高く持ち、レベルの高い学校にチャレンジするように指導してもらいたい。進学クラスで進路実績を上げてほしい。 ⑤SCや外部機関との連携をより一層図り、心身の健康に不安を持つ生徒に適切に対応してほしい。
7 次年度への改善策	
①生徒・保護者・地域の意見を取り入れ、幅広い進路希望に対応できる教育課程を検討する。 ②授業アンケートのフィードバックや協議を伴う研究授業を全教科で実施することによって、教員の授業力の向上を図る。 ③中高連携や地域でのボランティア活動の推進などで、生徒の活躍する場面を増やす。 ④自習室の活用を推進すると併に、生徒が自ら学習し教え合う習慣を醸成する。 ⑤生徒指導課・教育相談係・養護教諭を中心に全校協働体制でいじめの未然防止・早期発見・早期対応に務める。SCや外部の機関と連携し、相談活動を充実させる。	